

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 |
|----------|-----------------|-----|----|---------------------------|------|------|------|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | 2 | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 | × | × | × |
| 授業科目 | 担当教員 | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 | × | × | × |
| 研究ゼミナール2 | 今井 裕紀 | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース | × | × | × |
| | | | | 【1~3年次生】経営情報学部経営学科 | 専門 | 必修 | 3年 |
| | | | | 【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科 | × | × | × |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース | × | × | × |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × | × | × |

ゼミテーマ・タイトル

経営における人と組織

内容

本ゼミナールでは、人と組織に関する経営課題、社会課題に関連したテーマを各自が設定し、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになります。

研究対象分野は経営学における、人間の行動や、経営組織のマネジメントについての研究です。この分野における研究の例としては、ワークライフバランスの実現や、多様な人材の活躍推進およびキャリア形成支援、職場定着支援、ストレス、動機づけ、リーダーシップなどが挙げられます。人と組織に関する研究では、その研究が現在の企業経営や社会の課題解決にどう役立つかが重視されます。このゼミナールでは、経営や社会の諸課題とのつながりを意識しながら、各自が関心を持つテーマを設定し、研究します。

主要な進め方は以下になります。

①社会科学における基本的な研究の方法論について学ぶ。特に統計の基本的な使い方を学ぶ。

②人と組織に関する経営課題、社会課題について理解を深める。

③研究テーマを発表し、意見交換する。

④調査、分析の方法について意見交換する。

⑤結果について発表し、意見交換を行う。

⑥研究の進捗を適宜レポートにまとめて提出する。

統計の使い方については、別途テキストを指定します。

このほかに、経営課題や社会課題を分析した論文や書籍を題材として、文献要約・発表などを行なうことがあります。

【授業前・後の学習】

- ・関心のある経営問題等について白書や各種報告書、政府統計などを用いて調べ、研究テーマを構想する。

- ・研究の方法論について復習し、理解を深める。

- ・自分が考えたテーマの研究に必要な調査を行う（アンケート調査、政府統計などの公開資料による調査など、テーマに適した調査を行う）。

- ・卒業論文を執筆する。

- ・各回の予習復習に4時間必要となる。

使用予定テキスト

別途指定します

ゼミの進め方

方法論の学習、卒業研究のテーマ設定、卒業研究の進捗に応じた発表、意見交換、レポート提出などを行ないます。

成績評価基準

クラスへの参加、ディスカッションへの貢献（40%）、発表（30%）、レポート（30%）

ゼミ選択上のアドバイス

主に指導可能な研究の方法は以下の通りです。

1) 公開資料にもとづく調査、分析（白書、有価証券報告書、政府統計や各種報告書などを用いた分析）

2) アンケート調査（心理、社会心理、組織心理などに関連する内容を調査し、統計解析する）

| | | |
|----------------------------|----------------|--------------------------------------|
| 実務経験のある 教員による授業 科目有無 | 実務経験と授業科目との関連性 | アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施 |
| × | | ○ |

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 | | |
|----------|-----------------|-----|----|---------------------------|------|------|------|--|--|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | 2 | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| 授業科目 | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース | × | × | × | | |
| | | | | 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 | 専門 | 必修 | 3年 | | |
| | | | | 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 | × | × | × | | |
| 研究ゼミナール2 | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース | × | × | × | | |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × | × | × | | |

ゼミテーマ・タイトル

多様な価値観に触れることで、新しいアイディアを創出し、集団で問題解決することを、学びます。

内容

グループワークを通して、他者の意見を参考にしながら、各自、研究計画と履歴書の自己紹介書を執筆します。いずれも就職活動が本格化する3年次の2月までに終わらせておく必要があります。研究計画・自己紹介書の執筆は論理的な文章を書く大変良い練習です。また研究計画書が完成していると、研究に必要な時間の総量がある程度、把握できるため、安心して就職活動ができます。2つの課題を作成するため図書館・必要な文献の探し方(芋づる式・ブラブラ検索・データベースの利用など)・研究方法の習得(仮説の立て方)、面接の練習を行います。卒業研究1~4いずれにおいても、グループワークを行い、お互いの意見を参考にしながら進めます。また卒業研究1で地域活動を行った場合、継続して実施することもあります。また前期に引き続き、地域活動を行うこともあります。

9月 研究の3条件

仮説の立て方

10月 仮説の検証の仕方(インプリケーションと真理表)

11月 自己紹介文執筆のためのグループワーク

キャリアセンター訪問

自己紹介書の執筆

12月 文献の探し方

研究計画書の作成

面接練習

自己紹介書の執筆

1月 卒論発表会に参加しての振り返り

研究計画書の作成

自己紹介書の執筆

【事前・事後学習】毎回予習・復習に合わせて15時間相当の課題を行なってもらいます。

使用予定テキスト

チャー�尔斯・A・レイブ、ジェームズ・G・マーチ(佐藤嘉倫[ほか]訳)『社会科学のためのモデル入門』(ハーベスト社 1991年)の第1~3章
世界思想社編集部『大学生 学びのハンドブック[4訂版]』(社会思想社 2018年)

ゼミの進め方

毎回、グループワークを通して、アイディアを創出することを学びます。

成績評価基準

各回のグループワークでの活躍(50%)と、研究計画・自己紹介書で評価します(50%)。グループワークでアイディアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイディアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン(50%ずつ)で評価します。自己紹介書・研究計画書は共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、春休みの面接練習・サブゼミ等のグループワークを通して、フィードバックします。

ゼミ選択上のアドバイス

学習到達目標は以下の通りです。

- 1.自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。
- 2.新しく、社会に役立ち、根拠のある情報を創りだしてください。
- 3.情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。

| | | |
|--------------------|----------------|-------------------------------------|
| 実務経験のある教員による授業科目有無 | 実務経験と授業科目との関連性 | アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施 |
| × | | ○ |

その他

留意事項

- * 詳細は小宮山のホームページ(<http://www.nu.ac.jp/~komiyama/>)で公開します。
- * 春休みにサブゼミ(1日程度)を開きます。日程等は参加者の皆さんの都合に合わせます。
- * 先輩の卒業研究発表会には必ず出席してください。
- * 無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。
- * 虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 | | |
|----------|-----------------|-----|----|---------------------------|------|------|------|--|--|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | 2 | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| 授業科目 | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース | × | × | × | | |
| | | | | 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 | 専門 | 必修 | 3年 | | |
| | | | | 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 | × | × | × | | |
| 研究ゼミナール2 | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース | × | × | × | | |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × | × | × | | |

ゼミテーマ・タイトル

卒業研究へ向けた論文抄読

内容

卒業研究のテーマの絞り込み、研究実施のための専門性とスキルを身につける。

①文献収集

図書館、インターネット各種データベース、書店HPを用いて、卒業研究のテーマとなる論文、書籍を収集する。

②テーマ選択

収集した先行研究をもとに卒業研究のテーマの絞り込みを行う。

③英語論文紹介

参考とする英語論文についてレジュメにまとめ、論文内容と卒業研究の方向性を発表する（各週2人ずつ）。

発表や発表資料に対して、研究室のメンバー全員で議論する。

④研究実施へ向けたスキルの習得

各テーマにおいて必要なスキル（プログラミング言語、データ解析など）を習得する。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

使用予定テキスト

特になし。

ゼミの進め方

毎週2人ずつ、先行研究論文についてレジュメを作成し、紹介する。

紹介された論文について、質疑応答を行う。

成績評価基準

【成績評価】論文紹介(80%)、ディスカッション(20%)に対する取り組み。

ゼミ選択上のアドバイス

文献調査においては、英語論文の読解が必須である。

| | | |
|--------------------|----------------|-------------------------------------|
| 実務経験のある教員による授業科目有無 | 実務経験と授業科目との関連性 | アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施 |
| × | | ○ |

その他

ゼミ活動と並行して、卒業研究へ向けたテーマ選びを行います。

毎週の宿題として、報告してもらいます。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 | | |
|---|-----------------|----------------|----|---------------------------|------|-------------------------------------|------|--|--|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | 2 | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| 授業科目 | 担当教員 | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース | × | × | × | | |
| | | | | 【1~3年次生】経営情報学部経営学科 | 専門 | 必修 | 3年 | | |
| | | | | 【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科 | × | × | × | | |
| 研究ゼミナール2 | 佐々木 桐子 | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース | × | × | × | | |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × | × | × | | |
| ゼミテーマ・タイトル | | | | | | | | | |
| シミュレーション | | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | | |
| 最近にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化し、改善する方法を習得します。具体的には、生産、物流、道路交通、病院、銀行業務などのシステムを調査・分析し、離散系シミュレーション言語を用いてシミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験をおこない、改善策を検討します。 | | | | | | | | | |
| 使用予定テキスト | | | | | | | | | |
| 研究ゼミナール1で配布した「講義ノート」を使用します。この「講義ノート」は、研究ゼミナール2・3・4でも使用しますので、無くさないようにしてください。 | | | | | | | | | |
| ゼミの進め方 | | | | | | | | | |
| 離散系シミュレーション言語の習得。 ① 道路交通モデルの構築およびその発表。 ② 現実のシステムへの応用およびその発表。 【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】 | | | | | | | | | |
| 成績評価基準 | | | | | | | | | |
| 成果物（シミュレーションモデル）：50点、発表会：50点により評価します。 <発表会のフィードバックについて> 発表会の都度、講評をおこないます。 | | | | | | | | | |
| ゼミ選択上のアドバイス | | | | | | | | | |
| いろんなゼミナールについて、調べて、お話を聞いて、過去の卒業論文を見た上で、自分がどのゼミナールでどんな研究をしたいのかをじっくり考えてください。 | | | | | | | | | |
| 実務経験のある 教員による授業 科目有無 | | 実務経験と授業科目との関連性 | | | | アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施 | | | |
| × | | | | | | ○ | | | |
| その他 | | | | | | | | | |

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 | | | | | | | |
|--|-----------------|-----|----|---|-------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | | | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × × × 専門 × × × | × × × 必修 × × × | × × × 3年 × × × | | | | | | | |
| 授業科目 | 担当教員 | | | | | | | | | | | | | |
| 研究ゼミナール2 | 土屋 翔 | 2 | 後期 | | | | | | | | | | | |
| ゼミテーマ・タイトル | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域経営における大学生の力-持続可能な地域を目指して- | | | | | | | | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | | | | | | | | |
| 本ゼミナールは、地域が持続的に発展するための具体的な方法論を考え実行することが求められる。 具体的には 1) 地域の現状調査 2) 現状を把握した上で改善提案 3) より現実的に、持続的に発展するための再考 をスパイラルアップのように何度も繰り返していく。 以上の活動の中で、地域における自身の役割を実感し、地域経営の本質を理解してほしい。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 使用予定テキスト | | | | | | | | | | | | | | |
| 特になし。 | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼミの進め方 | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本的に教員が問題を提供し、その問題を学生間で解決する作業が何度もある。 しかし、回を追うごとに、自分で問題発見、解決する力を付けてもらう。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価基準 | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果物（50%）、貢献度（50%） | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼミ選択上のアドバイス | | | | | | | | | | | | | | |
| 可能であるならば、Instagramで@t.c.y.lab を見てほしい。 他にも、研究室にこれまでの活動報告書があるので、必ずどちらかを見たうえで選択してほしい。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務経験のある 教員による授業 科目有無 | 実務経験と授業科目との関連性 | | | | アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施 | | | | | | | | | |
| × | | | | | <input checked="" type="radio"/> | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | |
| 積極的に行動することが求められる。 予習復習に4時間、研究すること。 | | | | | | | | | | | | | | |

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 | | |
|--------|-----------------|-----|----|---------------------------|------|------|------|--|--|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | 2 | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| 授業科目 | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース | × | × | × | | |
| | | | | 【1~3年次生】経営情報学部経営学科 | 専門 | 必修 | 3年 | | |
| | | | | 【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科 | × | × | × | | |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース | × | × | × | | |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × | × | × | | |

ゼミテーマ・タイトル

より良い社会をつくるために問題点を見つけて、それを解決するための調査・研究テーマを考える。

内容

- 1) 卒業研究2ガイダンス
- 2) 文献検索の方法
- 3) 文献収集
- 4) 抄読会資料作成
- 5) 抄読会①(2名程度)
- 6) 抄読会②(2名)
- 7) 抄読会③(2名)
- 8) 抄読会④(2名)
- 9) 4年生卒論発表練習会に参加
- 10) 卒業論文計画書作成の要領
- 11) 文献収集と卒業論文計画書作成①
- 12) 文献収集と卒業論文計画書作成②
- 13) 4年生卒業論文発表会に参加
- 14) 卒業論文計画書作成③
- 15) 卒業論文計画書作成④(提出)

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

使用予定テキスト

ゼミの進め方

成績評価基準

授業中の課題や質疑応答などによる演習点60点(遅刻等による減点あり)及び課題点(レポート等)40点により評価する。

ゼミ選択上のアドバイス

社会の問題点(健康体力づくり、少子高齢化、医療・介護、ゲーム・スマホ依存、いじめ・虐待、道路交通法など)とその解決方法に興味のある学生を望む。

| | | |
|--------------------|----------------|-------------------------------------|
| 実務経験のある教員による授業科目有無 | 実務経験と授業科目との関連性 | アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施 |
| × | | × |

その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 |
|----------|-----------------|-----|----|---------------------------|------|------|------|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | 2 | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 | × | × | × |
| 授業科目 | 担当教員 | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 | × | × | × |
| | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース | × | × | × |
| | | | | 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 | 専門 | 必修 | 3年 |
| | | | | 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 | × | × | × |
| 研究ゼミナール2 | 藤田 晴啓 | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース | × | × | × |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × | × | × |

ゼミテーマ・タイトル

地域イベント参加・グループワークを通じての自分さがし

内容

スケジュールは以下のとおりです

9月：佐渡農家においてバーベキュー交流会

佐渡羽茂小泊奉納薪能+ホロジクションイベント実行+SNS発信

10月：大学祭にてSD法等による心理テスト、データ解析

11月：佐渡コンテンツSNS発信統計データとりまとめ

12月：ヒトの異なる社会行動に関連性があるか（ χ^2 検定）を学ぶ。

1月：AIビジネスイノベーションを学ぶ

2月：佐渡報告会にてプレゼンと新ゼミ生の研修

3月：新ゼミ生への研修と引継ぎ

卒論はゼミ生が選択したテーマに沿って、教員とじっくり計画を立てます。

毎週少しづつ卒論を書き、教員が個別指導。4年になってあわてる必要なし。

卒論は3年次中に多くの部分が書き上がります。

研究ゼミでのグループワークは以下のとおり

被験者に異なる条件下での感じ方SD法等の心理テストを行い。

統計的に差異があるか（t検定）、ヒトの異なる社会行動に関連性があるか（ χ^2 検定）を学ぶ。

機械学習・ディープラーニングによるビジネスイノベーション

大学生のメディア発信力による佐渡集落の活性化事業（2012年から毎年継続、9年目）

各回の予習・復習に4時間程度を要する

使用予定テキスト

必要に応じて配布します

ゼミの進め方

毎回全員でのグループワークのあと、卒論個人指導を行います

成績評価基準

卒論執筆提出分 5% × 15回

研究ゼミ2は上記に卒論発表会聴講報告評価点を加える

ゼミ選択上のアドバイス

自ら考え、行動することを心がけるようにしてください

実務経験のある
教員による授業
科目有無

実務経験と授業科目との関連性

アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施

×

○

その他

9月下旬に開催する佐渡合宿は全員参加となります。

2012年から毎年ゼミ生が参加する村祭りでの協力です。この準備に半年近く時間をかけます。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 | | |
|----------|-----------------|-----|----|---------------------------|------|------|------|--|--|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | 2 | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| 授業科目 | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース | × | × | × | | |
| | | | | 【1~3年次生】経営情報学部経営学科 | 専門 | 必修 | 3年 | | |
| | | | | 【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科 | × | × | × | | |
| 研究ゼミナール2 | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース | × | × | × | | |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × | × | × | | |

ゼミテーマ・タイトル

マーケティングの学問修得とコミュニケーション力・企画力の育成—フィールドワークを通して—

内容

本ゼミナールでは、グループワークを通して、マーケティングの学問の修得およびコミュニケーション力、企画力を育成することを目的とします。目標を達成するため以下の内容を実施します。

1. 産官学連携プロジェクト。
2. 企業や組織の実データを分析し、新たな商品・サービスを企画。
3. 社会人の講話から企業研究。

4. 学外のビジネスプランコンテスト等に成果物を発表。

* 産官学連携プロジェクトは学外者のスケジュールに合わせるため講義開催日が変更になる場合があります。

* 先方あっての事ですので、内容は未定です。

* この科目は、「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他社と協力して問題解決にあたること」および「情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できる」ための科目のひとつになります。

また、毎回の予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

特になし、必要に応じて資料を配布します。

ゼミの進め方

【商品・サービス企画の場合】

<課題提示>

(1) 課題に関するデータ収集

・顧客志向を探るには、思い込みでなく実際に生じているデータを集め、提示します（エビデンス）。

二次データ、一次データを集めます。

また、企業の実データを用いることもあります。

(2) アイデアを発想し選択します。

(3) (2) で選択されたアイデアについて構成する要素の最適な組み合わせを探ります。

(4) 成果物として、発表会等でパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行い、研究報告書を提出します。

(前期・後期ともに同じ内容ですが、取り組む課題が異なる場合があります。)

成績評価基準

ゼミナールでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価します。

具体的には、(1) ゼミナールへの出席・授業態度 (60%)、(2) 報告内容とレポート (40%) に基づいて評価します。

単に出席しているだけでは (1) の 60%になりません。

また 3 分の 1 以上欠席した場合は、単位は出しません。風邪やアルバイトの場合でも欠席になります。

ゼミ選択上のアドバイス

受動的な学生は向いていません。

企画力、コミュニケーション力を養いたいと思っている学生を歓迎します。

| | | |
|--------------------|----------------|-------------------------------------|
| 実務経験のある教員による授業科目有無 | 実務経験と授業科目との関連性 | アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施 |
| × | | ○ |

その他

土曜や日曜に学外へフィールドワークや外部交流をすることもあります。

(先方あってのことなので未定です。)

企業の実データを活用する場合もあります。

研究ゼミナールを通し、社会人への重大なパスポートとなる企業や組織では不可欠の「感動」を商品化する能力、すなわち（一人で）調査・分析・考察をし、企画力を身につけることを目標とします。

具体的には、以下の 3 つが学習到達目標です。

(1) コミュニケーション能力

・周囲（学外、異学年など）と共に創して課題に取り組むこと。それにより自分の考えを表現する力を身につけること。

(2) 実践的な能力

・共創により、さまざまな課題に取り組み、学内外で表現することで実践力を身につけること。

(3) 発想力・企画力・実行力

・課題解決の積み重ねにより、具体的なプランとして提起する力を身につけること。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

| 科目コード | ナンバリング | 単位数 | 学期 | 授業区分 | 科目区分 | 履修区分 | 配当学年 | | |
|----------|-----------------|-----|----|---------------------------|------|------|------|--|--|
| 410039 | X-32-B-3-410039 | 2 | 後期 | 【1・2年次生】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| 授業科目 | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 | × | × | × | | |
| | | | | 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース | × | × | × | | |
| 研究ゼミナール2 | | | | 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 | 専門 | 必修 | 3年 | | |
| | | | | 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 | × | × | × | | |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース | × | × | × | | |
| | | | | 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース | × | × | × | | |

ゼミテーマ・タイトル

管理会計と会計情報システムに関する研究 ~会計情報を活用して企業の命を救うことができます~

内容

このゼミナールでは、管理会計と会計情報システムに関する研究を行います。

管理会計は「経営に役立つ会計」であり、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。この授業を履修することによって、以下を修得することができます。

- ・原価や費用を削減して、企業がより多くの利益(儲け)を得る方法が身につきます。
- ・原価や費用の発生源によって、その管理の方法が異なることを理解できます。
- ・会計情報を用いて、企業の業績の良し悪しを測定できるようになります。
- ・会計情報システムの機能や役割を、より深く知ることができます。
- ・経営学だけではなく、技術やものづくりにも興味がわきます。

【関連するディプロマポリシー(学位授与方針)】自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること。

【アクティブラーニングの実施】発表と討議を実施します。

【予習復習】毎回180分相当の予習復習が必要です。

使用予定テキスト

上埜進等(2010)『管理会計の基礎 第4版』税務経理協会, ISBN:9784419054595.

ゼミの進め方

「研究ゼミナール1, 2」では管理会計に関する本を輪読し、知識を深めていきます。

「研究ゼミナール3」では卒業論文のテーマを選択し、文献などの調査を行い、執筆を開始します。

「研究ゼミナール4」「卒業論文」では卒業論文の執筆を行い、その成果を卒業論文発表会で発表します。

また、工場見学やゼミ合宿も行う予定です。

成績評価基準

「研究ゼミナール1, 2, 3」は、課題レポート50%、報告及び討論50%で評価します。

「研究ゼミナール4」は、課題レポート80%、報告及び討論20%で評価します。

「卒業論文」は、論文70%、発表会20%、データベース登録5%、執筆日誌5%で評価します。但し、4項目の全てを行った場合のみ、成績評価の対象とします。

ゼミ選択上のアドバイス

このゼミナールでは、世の中の様々な現象に深く関心を持っている学生を求めています。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。

| | | |
|--------------------|---|-------------------------------------|
| 実務経験のある教員による授業科目有無 | 実務経験と授業科目との関連性 | アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施 |
| ○ | 上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務経験を基に会計・経営について指導します。 | ○ |

その他

【卒業後の進路と就職先】

このゼミナールの学びはものづくりと関連が深いため、製造業への就職を推奨しています。

また、会計の知識を直接活かすことができる会計事務所や会計ソフトウェア会社への就職も推奨しています。公認会計士や税理士になる道もあります。

上記以外では、小売業、次いで情報産業への就職実績が多いです。

金融業(銀行、保険、投資等)、総合商社、マスコミなどはあまり推奨していません。また、就職実績も極めて少ないです。

上場企業への就職実績もあります。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習